

第2回豊川市総合計画審議会での意見及び対応一覧（基本構想）

	該当箇所	意見	委員	対応状況
1	第1章 まちの未来像	具体的に何が良いとは言えないが、やはり、総合計画が変わるので、ある種、形式的、シンボリックなものではあるが、変えないといけないと思う。それがアンケートに回答した子どもたちや市民に対する責任ではないか。最後の最後で良いと思うので、総合計画を表すようなものにしたらどうか。	辰巳委員	いただいたご意見を踏まえ、引き続き検討することとします。
2	第2章 土地利用構想	2ページ目の「地域ごとの方向性」の「(1) 市街地を中心とする地域」に「コンパクトで利便性の高い市域」とあるが、ここはそもそも違和感があって、豊川市自体が合併の関係で色々なところに色々なものが分散している。コンパクトというよりは交流や相互に人が行き来するという。その辺りを都市環境に反映した内容の方が市民の方に響くと思う。	鈴木委員	現行計画では合併前の旧町の市街地を含め、各拠点を道路や公共交通で結ぶ多極ネットワーク型コンパクトシティを目指しているため、土地利用構想の記載はそれを表現していますが、内容については、第3次都市計画マスタープランの改訂と整合を図る形で検討することとします。
3	第3章 基本方針1	基本方針を全体的にみて、「市民目線」が不足していると感じた。例えば、基本方針1で人口増施策を進めるとのことだが、豊川市民にとって人口が増えることを望んでいるのか。それより自分たちがずっと住みたいと思えるまちになってほしいことが強いと思う。結果的にそれによって人が集まってくると思うので、人口増施策というのは響かないと思った。 以前の定住やずっと住みたいと思える定住施策など、市民の方がそうだよねと思える表現があった方が良かったと思った。	鈴木委員	人口増施策は、市民の暮らしの持続性を保つために重要であると考えますが、それが市民に伝わりにくい内容であったと省みる中で、「市民の暮らしやすさを支える生活基盤や行政サービスを維持していくためには、人口減少を抑制し、自治体としての人口規模を保つ取組が重要」という記述に見直しました。また、目指す方向性として「すべての市民が安心して暮らし続けられるようなまちづくりに取り組みます。」という記述を加えました。
4	第3章 基本方針1	意見として、今、いる人を大事にしてほしい。施策が行き渡っているかどうかを市民は見ると思う。「人口増」というと、言葉は良いと思うが、子どもを産む、育てるとというのが、施策として切れ切れになっていると、市民にはあまり響かないのではないかなと思う。	小野会長	

	該当箇所	意見	委員	対応状況
5	第3章 基本方針2	<p>基本方針2の「シティプロモーションを進めます」の項目、前の第6次には「市民と共に」という文言があったが、それがなくなって「豊川市としての」となっている。市民と一緒にという言葉がなくなったのが残念だと思うのと、全国発信していくのは、市民や民間の方の力もあると思うので、そういう言葉があると、みんなで豊川を愛していくという、同じ方向を向いていけると思った。</p>	大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の魅力発信や地域資源の発掘、磨き上げなどを市民とともに取り組むこと、また、シティプロモーションという用語の内容を伝えるため、「魅力ある地域資源のみならず、あらゆる行政分野の施策に関する魅力発信や、市との接点を持ち続けてもらう関係人口の創出、本市のブランドとなる地域資源の発掘、磨き上げなどについて、市民とともにオール豊川で取り組むシティプロモーション」という記述に見直しました。</li> <li>・市外だけでなく市民に向けたシティプロモーションも重要であるため、「多くの人に住んでもらい、訪れてもらうためには、まちの魅力を伝えたり、まちの魅力そのものを発見し、高めたりするような取組が重要」という前提を伝える内容に見直すとともに、目指す方向性として「市内外の人に本市への愛着を感じてもらえるよう取り組みます。」という記述を加えました。</li> </ul>
6	第3章 基本方針2	<p>シティプロモーションも、例えば、「豊川市の魅力発信を強化します」など、そうだよねと思えるような言い方にした方が、基本方針なので、皆さんが一丸となって、この目標、方針に納得できるような感じになるのではないかと。</p> <p>市民向けの発信なのか、市外に向けての発信なのか、いまの情報発信ってどっちを向いているのか分からない。シティプロモーションはどちらかというと、外への発信に見えるので、市民は自分たちに関係するものなのかと感じてしまう。そこも市民目線が足りない。同じことだと思う。</p> <p>「豊川市の魅力発信」というと、市民も他に良いことがあるのか、自分事として捉えられるのではないかと。やはりこういうものは見たときに「そうだね」と思ってもらえた方が共感してもらえると思う。行政としては一般用語かもしれないが、一般の人はシティプロモーションとは言わないので、もう少し分かりやすい方が市民の方に響く。例えば、職員の方が家族の方に聞いてもらうとか、納得性を確認するのが大事だ。</p>	鈴木委員	
7	第3章 基本方針2	<p>まちづくりの基本方針の3ページ「シティプロモーションを進めます」について述べさせていただく。観光というと、旅行や温泉のような、出かけるというイメージを持つ人が多いと思う。計画の中では、外から訪れる方が増えたことにより観光消費額が増え、経済が潤う点、また、住んでいる人には観光資源、お祭りや地域にあるものに対しても、観光に関する意識の改革も重要だと感じている。「シティプロモーション」という言葉は、どちらかというと外の方を豊川に誘致して観光消費額を上げる、というイメージが強く感じるということで、他の委員の方からは、住んでいる方々がどう感じるかという意見があった。</p> <p>とよかわブランドにおいても、市民の郷土愛の育みや地域のものに誇りを持つことについて、認識不足がとても大きいと感じた。特に、子ども達のアンケート、ワークショップなどの意見も、やはり知らない＝何もないというところがあると思った。観光協会でも、教育関係の方から出前事業で、とよかわブランドの方々の事業を紹介させていただいたり、私も授業に行かせていただいたり、インターンシップの受入をすることで、気づきが生まれる。観光に対して、色々な意味で行き違いがあることがよくある。市の観光振興計画がしっかりあるので、協働、連携していくことで、少しずつ変わるのではないかと。上手に市民に分かるような表現の仕方を私も考えていきたいと思うので、事務局の皆様としっかりと詰めていきたい。</p>	平賀委員	

	該当箇所	意見	委員	対応状況
8	第3章 基本方針3	基本方針3の「市民協働を進めます」をやめて「多様な主体との連携を進めます」に変わっていることにショックを受けている。今、協働が必要で、協働推進計画を立て、各課に協働推進委員を設置している豊川市が「連携」のみの文字で、「多様な主体との連携を進めます」。右に注釈は書いてあるが、「協働」の方が「連携」より共通の目的を達成する意思の強さ、力を合わせて協力して働くという真剣さの度合いが強いと見ているので、「連携・協働を進めます」を提案したい。	神谷委員	基本方針3を「多様な主体との協働・連携を進めます」に見直すとともに、目指す方向性として「力強さと創造性に富んだまちづくりに取り組みます。」という記述を加えました。
9	第3章 基本方針4	4ページ目にDXやGXが載っているが、目標にGXもDXも出てこない。そこに違和感がある。今風の言葉を並べたコーナーになっている。その後の目標や施策にDXやGXが出てくると、自然な形でさっき言っていたことだと感じるので、無理に入れない方が良いのではないかと思います。入れるなら後半の目標にも出てくるのが自然だ。	鈴木委員	DXやGXについては、あらゆる政策分野に関係し、持続可能なまちづくりで留意すべき内容であると考え、原案のとおりとさせていただきます。
10	第3章 基本方針4	前回の基本方針と比べると、基本方針4の横文字が多くなっている。GX、ファシリティマネジメント、DX、これらが当たり前に並べられて、読むと何を言っているのかよく分からないのが率直な感想だ。DXという言葉は行政では当たり前かもしれないが、まだ一般的ではない感じがする。計画の中で用語解説があるが、基本方針は大きなところなので、もう少し、平易な言葉で書くべきだ。行政分野別の計画や、細かい部分で横文字が出てきても、解説があればある程度分かるが、大きな部分で最初から見ると何を言っているのかよく分からない。できれば平易な言葉、もしくは、長くなっても分かりやすい言葉にした方が良い。 特にDXという言葉は、10ページに「自治体DXの推進」と出てくるが、デジタル技術の…と、少し言葉を変換し平易な言葉にした方が良い。	原田委員	用語の内容が伝えられるよう、用語の説明になるような記述を加えました。
11	第4章 目標2	目標2の「子どもや若者が未来に夢や希望を描いているまち」について質問だが、読んでいくと「支援の充実」とあるが、なぜ支援の充実にしたのか疑問がある。なぜかということ、環境の整備を主体として行って、具体的な施策として支援をあげた方が良いのではないかと。人口増などを考えると、環境の整備を掲げることで子育てしやすい、子育てをしやすくなるような企業が入ってきたりするのではないかと。その下で実際に困っている家庭の支援や若者の支援に向かっていく必要が市にはあるのではないかと。方向性としては良いと思うが、もう一つ上の目標として進められたら良い。	岩瀬委員	より包括的な方向性を示すことができるよう、「支援の充実」を「環境の整備」に見直しました。
12	第4章 目標2	目標2の「子どもや若者が未来に夢や希望を描いているまち」について、子育て支援は保護者の援助や経済的に困窮している家庭への支援だと思うが、保護者へのサポートが子どもの幸せにつながるといった内容の記載があっても良いのではないかと。子育て支援だけでは、保護者の立場から見ると自分は支援の対象に入っていないと感じるが、保護者へのサポート等の表現があると対象者の枠が広がっているように感じるのだから分かりやすいのではないかと。	井上委員	子育て中の保護者も支援の対象であることが伝えられるよう、「子育て中の保護者」という記述を加えました。

	該当箇所	意見	委員	対応状況
13	第4章 目標2	新たな政策分野として立ち上げたいという市の思いがあるのであれば、施策が3つでは少ないのではないかと。多いから良いというものではないが、先ほど言われたような保護者のサポートの話や、例えば育児休業を取る社員のいる企業側からすると、職場に残った人たちに対するケアというのも非常に必要。子どもを育てる人達の周りにはいる人達への支援も取り組まなければならない。また、「子育て」と言うが、子どもの年齢によってのケアをもっと明確にしないと、大学生まで全部「子育て」となってしまう。出生時、幼稚園・保育園、小学校と、それぞれ子育てのテーマが違い、子どもの方も成長のテーマが違うのではないかと。せっかく新たな政策分野として立ち上げるのであれば、先ほど第6次以前とあまり変えり映えしないという話もあるので、第7次ではここを変えましたというテーマにできるようにすれば、変わってないと思われることもなく、目玉にしていけないのではないかと。	小野会長	いただいたご意見や今後の基本計画の検討状況を踏まえながら、引き続き策定作業を進めます。
14	第4章 目標3	5ページの子ども・若者についてはこれからを担っていく方々のことであるが、今後、高齢化率が高まっていく。目標に具体的に高齢者に対するコメントも入っていると嬉しい。若者への目線のものもしっかりあるが、高齢者についていかがか。目標は大事なので、目標の中に文言として落とし込んでいただきたい。	権田委員	まちづくりの目標と施策の内容のつながりがわかりやすくなるよう、第2回総合計画審議会時の案にある「第4章 まちづくりの目標」と「第5章 施策の骨組み」を統合しました。
15	第4章 目標3	人口増を施策として入れるところが第7次の肝になっている。そのための雇用創出や子育て支援に「選択と集中」をしていると理解はしているが、地方自治はすべての人が幸せでいきいきと生活できるためにと考えれば、高齢者やその他のいろいろな人に思いを馳せることが重要だと思う。取りこぼしのないようにしてほしい。	櫻井委員	いただいたご意見につきましては、基本計画の策定作業における重要な観点として共有します。
16	第4章 目標3	目標3の健康・福祉の部分だが、今「8050問題」といって、障害のある人の親が高齢になってきて、障害のある本人も50歳くらいという、お互い高齢になってきている問題が社会で取り上げられている。障害のある人が親亡き後も地域で安心して暮らせる仕組みづくりを盛り込んでほしい。	細井委員	
17	第4章 目標3	目標3について、重層的支援体制整備事業に特化したことばかり書いてある。最後の地域福祉のところもそれ一本にしてはいけない。人が集って安心して暮らせる魅力的な地域をつくるのが地域福祉だと思っている。経済の発展や暮らしやすさのバランスは保っていないといけないが、そこに関わる人全員が幸せになるまちづくりが政策だと分かる方が良く思っていて、一度検討していただくとありがたい。	神谷委員	地域共生社会の実現を目指すことで、市民が安心して暮らすことができる地域を作っていくという方向性を示すことができるよう、「安心して幸せに暮らすことができる」という記述を加えました。

	該当箇所	意見	委員	対応状況
18	第4章 目標4	<p>目標4だが、文言に変更がなくて書いてあるのはインフラ整備をやるということだけ。いい加減、「作る」でなく「使う」、エリアマネジメントや既存ストックをいかに活用して、市民協働や産官が協働してまちを作っていく、マネジメントの姿勢の観点を書かないと、変わらないと思う。中心市街地がまったく変わらないのはここに原因があって、ずっとインフラや区画整理など、道路を造れば企業が来て満足するということから抜け出していないため、市民が乗り切れず、代わり映えしない。子どもの意見をみると、祭りやイベントに参加できないとか、頼っているのは大型店の中でやっているイベントくらい。そういうところを変えていかないと、変わらないのではないかと強く思っている。</p>	浅野副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリアマネジメントについては、豊川稲荷周辺地区や牛久保地区において、ハード整備とあわせて行うソフト事業などを地域住民などとともに取り組んでいるところですが、引き続き行政の支援が不可欠な状況であるため、事業単位で取組を進めることとします。</li> <li>・既存ストックの活用については、用語のわかりやすさに配慮し、「地域資源の活用」という記述を加えました。</li> </ul>
19	第4章 目標6	<p>目標がそれぞれ掲げられ、「まちづくりの課題整理」のところで色々な課題が列挙されていて、ワークショップなどで市民の意見が提示されているが、それが目標にどう生かされているのか、関連付け、結びつきができていないと感じる。農業について、目標6でも第6次と同じような普遍的な、代わり映えしない記述になっている。やはり、環境も時代も変わっているので、その中で、特に農業関係だと魅力がなく、後継者の不足や人口減少もそうだが、若い人にそれぞれの産業の魅力や豊川市の魅力を表現しないと、普遍的な表現だけに終わってしまう。言葉の整理をお願いしたい。</p>	伴野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まえがきの内容については別途見直し案をお示しする予定です。</li> <li>・まちづくりの目標については、基本計画に定める行政分野別計画において、施策「農業の振興」の将来目標として「効率的かつ安定的な農業経営により、魅力とやりがいのある農業が育っているまち」を掲げています。まちづくりの目標と施策の内容のつながりがわかりやすくなるよう、第2回総合計画審議会時の案にある「第4章 まちづくりの目標」と「第5章 施策の骨組み」を統合するとともに、現行計画の基本計画で定めた「農業の振興」の将来目標（前述）を基本構想で定めるよう見直しました。</li> </ul>